

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	彩都西中学校ブロックでの連携組織を確立させる。	「見合う・知り合う」 ○彩都西中学校で合同授業研 12月6日(水) 中1年 ○小小交流(彩都カーニバル、運動会の見学、連水連運に向けて) ○小中連携(体験授業・部活見学) ○ブロック連携会議(月1) ○小学校への出前授業 ○他校の校内研修への参加	「目標と共通実践の決定」 ○清溪小学校で合同授業研 ○小小交流 ○小中連携 ○ブロック連携会議(月1) ○小学校への出前授業 ○合同研修会 ○連携担当者以外の担当者会を行う ○他校の校内研修への参加	「実践より、成果と課題」 ○彩都西小で公開合同授業研 ○小小交流 ○小中連携 ○ブロック連携会議(月1) ○小学校への出前授業 ○合同研修会 ○各担当者会議 ○他校の校内研修への参加 ○9年間のカリキュラムの見直し、実践後の成果と課題
確かな学力の育成	自ら学び考え、仲間とともに生き生き活動する子を育てる	① 確かな学力の育成 ◎確かな学力の共通認識 ・基礎基本的な力 「読み・書き・計算」 ・コミュニケーション力 ・聞く力(態度・姿勢) ・思考力(考える力) ・生活に生かせる応用力 ② 豊かな人間性の育成 ③ 小中連携の活性化	① 確かな学力の育成 ◎確かな学力の共通認識 ・基礎基本的な力 「読み・書き・計算」 ・コミュニケーション力 ・聞く力(態度・姿勢) ・思考力(考える力) ・生活に生かせる応用力 ② 豊かな人間性の育成 ③ 小中連携の活性化	① 確かな学力の育成 ◎確かな学力の共通認識 ・基礎基本的な力 「読み・書き・計算」 ・コミュニケーション力 ・聞く力(態度・姿勢) ・思考力(考える力) ・生活に生かせる応用力 ② 豊かな人間性の育成 ③ 小中連携の活性化
豊かな人間性を育む	自己有用感・自尊感情・違いを認めあう子の育成。地域を知ったり、関わったりして、つながりを深める。	「取組みの実践・交流」 ◎系統立てた年間カリキュラム作成 ◎集団づくり計画 ◎実践交流会 ◎地域との連携 ◎自文化理解を深める ◎同和教育の研究と実践。	「六年間を見通したカリキュラづくり」 ◎年間カリキュラム見直し ◎集団づくり計画 ◎実践交流会 ◎地域との連携 ◎自文化理解を通し、多文化理解を深める。 ◎同和教育の研究と実践。	「実践の成果と課題」 ◎年間カリキュラムの実践後の成果と課題。 ◎集団づくり計画 ◎実践交流会 ◎地域との連携 ◎自文化理解を通し、多文化理解を深める。 ◎同和教育の研究と実践。
健康・体力の増進	運動をすることが好きな児童を全国平均より増加させる。	◎学校として体育科学習のカリキュラムと評価の一体化を追及する。 ◎授業力の向上に努める。 ◎茨木っ子運動の継続。 ◎運動習慣の確立に向けた取組みの検討。 ◎食育の推進。	◎授業と評価の一体化を追及。 ◎授業力の向上に努める。 ◎茨木っ子運動の継続。 ◎運動習慣の確立に向けた取組みを実施。 ◎食育の推進。	◎カリキュラムと評価を実施。 ◎授業力の向上に努める。 ◎茨木っ子運動の継続。 ◎運動習慣の確立に向けた取組みを実施。 ◎食育の推進。
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
良好な結果であった。
- ② 書くこと
良好な結果であった。
- ③ 読むこと
概ね良好な結果であった。
- ④ 言語事項
良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった。
- ② 短答式
概ね良好な結果であった。
- ③ 記述式
該当の問題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・言語事項の漢字の読みの正答率が高い。
- ・文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことの正答率が、全国と同様低く、課題が残る結果となっている。
- ・相手や場面に適切に敬語を使うことに、少し課題が残る。

国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
大変良好な結果であった。
- ② 書くこと
良好な結果であった
- ③ 読むこと
大変良好な結果であった
- ④ 言語事項
(該当の問題なし)

(問題形式)

- ① 選択式
大変良好な結果であった。
- ② 短答式
(該当の問題なし)
- ③ 記述式
大変良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・話し合いの参加者として、質問の意図を捉えるの正答率が高いが、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることの正答率は低くなっている。
- ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことには、課題が残る。

分析

- ・国語A、国語Bとも全国・大阪府を上回り、良好な結果であった。
- ・基本的に言語事項が良くできている。
- ・学習した漢字は普段から意識して使う指導が必要である。同音異義語を扱うなど語彙を増やす指導を低学年から行う。
- ・自分の考えをまとめることに苦手意識を持ち、無解答になっている層に対しては、普段から自分の考えを出す場作りが必要である。
- ・文章にして話す力、作文にして書く力、プレゼンなどで表現する力、要点や自分の考えを簡潔にまとめる力を伸ばす授業づくりが必要である。
- ・児童がより能動的に学習することができる授業を行う。

○●算数●○

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算
大変良好な結果であった
- ② 量と測定
概ね良好な結果であった
- ③ 図形
良好な結果であった
- ④ 数量関係
大変良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
大変良好な結果であった
- ③ 記述式
該当の問題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ 180° の角の大きさを理解している問題の正答率が最も高い。
- ・円周率の意味について理解している問題の正答率が最も低い。
- ・折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる問題の無解答率が高い。
- ・全体的に無解答率は低い。

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算
大変良好な結果であった
- ② 量と測定
大変良好な結果であった
- ③ 図形
大変良好な結果であった
- ④ 数量関係
大変良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
大変良好な結果であった
- ③ 記述式
大変良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる問題の正答率が最も高い。
- ・棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる問題の正答率が最も低い。
- ・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる問題の無解答率が最も高い。
- ・全体的に無解答率は低い。

分析

- ・算数A、算数Bともに全ての区分で全国・大阪府平均正答率を上回っている。
- ・問題形式に記述式がない算数Aについては正答率が高い問題が多くある。一方で記述式の多い算数Bにおいては正答率が全体的に低くなっている。
- ・自力解決の時間を有効に使えるよう、日頃から児童が意欲をもてる課題設定にするとともに児童が自分の言葉でしっかりと説明できる力をつけられるよう授業改善を行う。
- ・全体的に無解答率は低い、一部無解答が目立つ問題がある。日常生活の中にある算数の問題だが、文章が長文で読み取ることにも時間を要している。数学的な考え方ができ、文章を最後までしっかりと読みきる力をつけていく。
- ・短答式の問題は、正答率が高く、無解答率が低い。計算に必要な情報を読み取る力や記述する力をつけていく必要がある。

理科

(領域ごと)

- | | |
|--------|-------------|
| ①物質 | 概ね良好な結果であった |
| ②エネルギー | 良好な結果であった |
| ③生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④地球 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

分析

- ・理科の問題では、無解答率は少なく、どの問題にも解答しようとする姿勢が見られた。また、もっとも無解答率が高かった問題は、記述問題であった。
- ・正答率も高く全国、大阪府の正答率と比べても良い結果であった。
- ・「知識・理解」の項目は正答率が高かった。また、活用を問う問題では、全国・大阪府平均と同じように正答率が低かった。
- ・記述問題では、端的に回答せず必要のない言葉を付け足すなどして、必要以上の言葉を使っていた。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・算数・国語と、全ての区分で全国・大阪府平均正答率を上回っている。
- ・無解答率は、算数・国語ともに全国平均より低い。
- ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く力は弱い。
- ・理科の平均正答率が下がってきている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・算数はA・Bともに学力低位層の割合が少し高くなっているが、学力高位層の割合も高くなっている。国語はA・Bともに学力高位層の割合が高くなっている。国語Aは学力低位層の割合が低くなっている。
- ・エンパワー層は、昨年度より少し減少している。
- ・以前に比べて学力高位層とエンパワー層の開きは少なくなっている。児童が学力テストの出題傾向に慣れてきたことが考えられる。

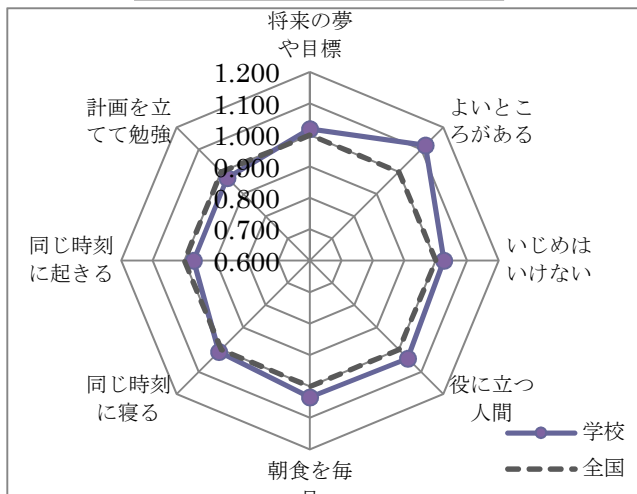
○●取組み●○

学力向上に関する取組み

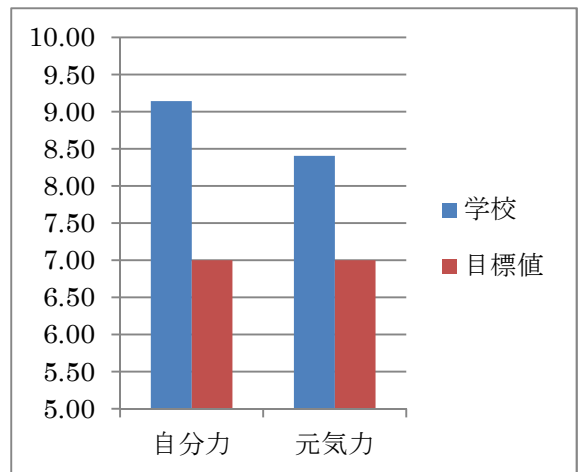
- ・国語や社会、総合では資料活用・資料づくりを通して人に伝える力、プレゼンテーション力をつけている。また、委員会などの活動を通して、各学年に発信することも行っている。
- ・新出漢字について 一度覚えた漢字は間違えていてもなかなか訂正できない児童がいるので、最初に丁寧に教える。
- ・話す力をつけるために、スピーチなどを行っている。
- ・漢字ドリルなどの書き取り練習を思い込みで行い、漢字を間違える児童もいるので、見本をよく見て書くよう意識させる。
- ・算数では、図形などの単元において、視覚的に子どもたちが理解できるように授業の準備物を作成している。教師の手元にも児童と同じものを用意して、わかりやすいノートづくりを心がけている。
- ・低学年から具体物を操作する活動や、体験的な活動を多く取り入れ、数や量の感覚を身に着けるようにする。
- ・機械的に数だけを見るのではなく、図でも考えることができるように指導する。
- ・問題解決型学習を継続していく。
- ・振り返りを授業の終わりに書かせ、自分が理解できているかどうか考える時間を作り、振り返りを見て授業力向上に努める。
- ・国語・算数だけに限らず、自分の考えを書く機会をとる。
- ・これからも45分の授業をきちんと使って、めあて、振り返りの授業の流れを大切にしていく。
- ・系統立てて、積み上げを大切にしていく。
- ・ICT機器を有効に活用し、わかりやすい授業づくりに取り組んでいる。
- ・積極的にゲストティーチャーを呼び、様々な人との出会いを通して、人から学び心が動かされるような場面を設定している。
- ・児童が楽しんで学習できる授業の研究を進める。
- ・毎時間の授業の流れ（「めあて」提示から「解決」）や方法（視覚支援・板書）を統一し、どの学年も共通して取り組んでいるので、これからも継続していく。
- ・量をはかったり、物を数えたりなどの算数的活動に各学年で系統立てて取り組んでいく。
- ・どの子も自分の成長を感じ、達成感を味わえるような活動を取り入れる。
- ・児童の学習の理解度に応じた問題を解く時間を取り入れる。
- ・問いに対して要点をしぼった答え方ができるよう、普段の授業でもていねいに指導する。
- ・低学年のうちから自分の考えを言葉や式で書くような問題に取り組んでいく。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

《ゆめ力》

- ・将来の夢や目標を持っている児童は全国平均よりわずかに上回っている。
- ・将来の夢を持っている児童が増えてきている。

《自分力》

- ・「自分にはよいところがあると思う」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の三つの項目で当てはまると答えた児童が全国平均を上回っている。
- ・「自分の良いところはありますか」のポイントが高いことから、自己肯定感が比較的高いと考えられるが、他の項目と比べると当てはまると答える児童が少ない。

《つながり力》

- ・学級の友達との話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている児童が多いので、さらに、取り組みをすすめていく。
- ・自分にいい所があると思っている児童が多く、アンケートの結果を見ると友達との話し合い活動の中で自分の考えを深められていると感じている児童は全国平均を超えている。しかし、困り感を上手に表現することが苦手で、周りも困っている子がいることに気づかず、助ける事ができない現状も見受けられる。
- ・自分にいい所があると思っている児童が多いが、他者との関わりが積極的ではない。
- ・コミュニケーション力が高くなく、協力して行動することが難しい児童もいる。

《学び力》

- ・算数の勉強は大切だと思っているが、算数の勉強が好きな児童は少ない。理科の勉強は、大切だと思う児童も好きだと思う児童も全国平均に比べて少ない。このことから、自分から進んで積極的に学習に取り組んでいる児童は少ないと考えられる。
- ・自分で計画立てて勉強をしている児童が全国平均を下回っている。また、勉強は大切だと感じる児童は多いが、好きだと感じる児童は少ない。
- ・家庭や習い事など様々な場面で豊富に知識を得ている児童が多いこともあり、普段の授業に興味・関心を持つことができにくい児童がいることが考えられる。

《元気力》

- ・多くの児童が、毎朝同じくらいの時刻に寝起きし、朝食を毎日食べて規則正しい生活ができている。
- ・朝食をきちんととり、同じ時刻に寝ているが、起きる時刻は少々不安定である。

取組み

《ゆめ力》

- ・スモールステップで目標を持たせ、達成感を与える授業づくりに取り組み、夢を持てるようにつなげていく。
- ・誰かの役に立ちたいという想いが、夢へつながるように、今後も夢を持ち現実に近づけるような授業、学級集団づくりに取り組む。

《自分力》

- ・お互いの良いところを認め合う取り組みを日ごろから学級で行う。
- ・彩都カーニバルや参観に向けてなどで、自分たちで作り上げていくことを学んでいる。
- ・人権週間には作文や標語、ポスターに取り組んでいる。また児童会活動等とリンクさせながら、いじめは何かあっても許さないという意識をより一層強く持たせていく。

《つながり力》

- ・総合や道徳の時間を通して、それぞれの意識を育てていく。
- ・学級や学年みんなで協力して何かをやり遂げることの楽しさを感じとれるような集団作りに取り組む。
- ・学級・学年・学校全体など人と関わる機会を意図的に作っていく。
- ・彩都カーニバルやなかよし集会を通じて、異学年交流をすすめていく。

《学び力》

- ・次年度は「楽しくわかる授業をつくるために～言葉の力を高める～」をテーマに研究を進め、各教科を好きになるような授業を目指す。
- ・授業では積極的に参加できるよう、ペア学習や班学習を取り入れ自分の意見を友達の前で発言できるような授業作りに取り組む。
- ・毎時間の授業の流れ（めあて→解決）や方法（視覚支援・板書）を統一して、どの学年も取り組んでいるので、引き続き継続していく。
- ・物をはかったり、数えたりなどの算数的活動に、各学年で系統立てて取り組んでいく。
- ・どの子も自分の成長を実感し、達成感を感じられるような活動を取り入れる。
（定期的に計算のタイムを計る、など）
- ・児童の学習の理解度に応じた問題を解く時間を取り入れる。

《元気力》

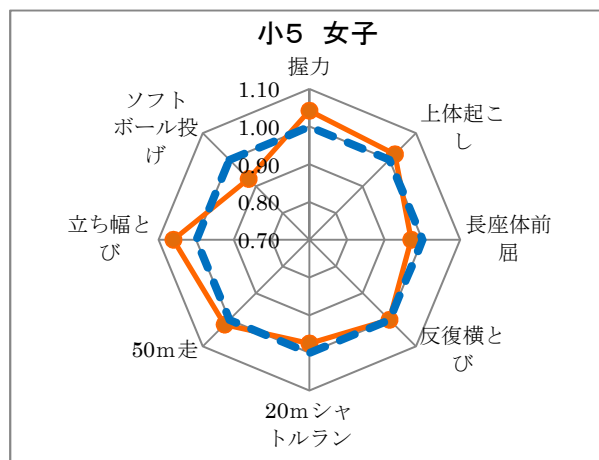
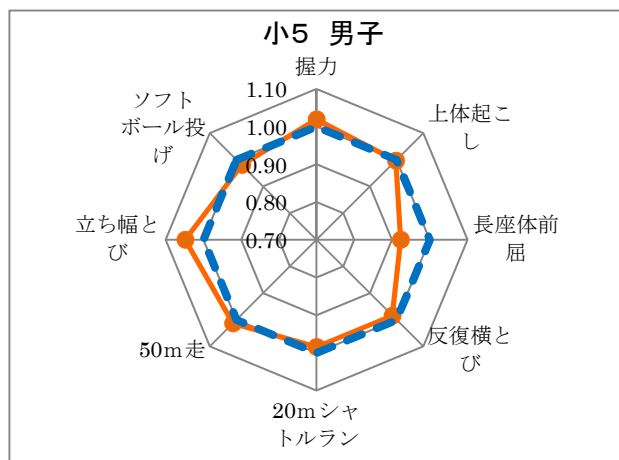
- ・学校規律や、給食、掃除などの学校生活を気持ちよく過ごせるよう、どの学年でも指導していく。
- ・毎日決まった時刻に寝られるように、寝る時刻を意識させる。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

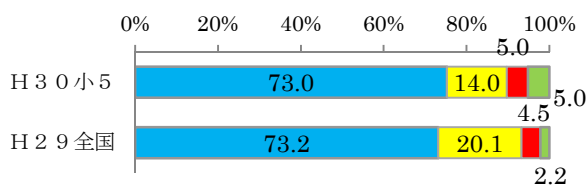
○●体力●○

男子 (小5)

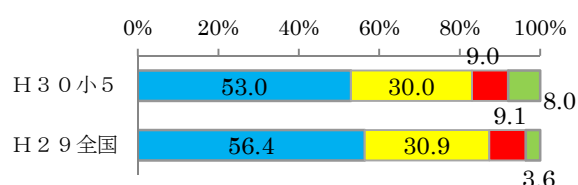
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■ 好き
 ■ やや好き
 ■ ややきらい
 ■ きらい

分析

- ・昨年度と比べ、立ち幅跳びと20mシャトルランのポイントが大幅に伸びている。
- ・50m走と上体起こしは、全国と比べ遜色がない。
- ・ソフトボール投げは、昨年度と比べポイントは伸びているが、全国平均には至っていない。
- ・反復横跳びは、昨年度と比べポイントが伸び、およそ全国平均となっている。
- ・握力は、全国平均と上回っているものの、昨年度と比べポイントは下がっている。
- ・長座体前屈のポイントも低く、柔軟性に課題がある。
- ・男女共に80%を超える児童が運動・スポーツが好きと感じている。

このことから、一定の筋力量はあると考えられ、ポイントを伸ばした種目も多くあったが、課題の残る種目もあり、経験値や運動量・技術が足りていない部分が依然としてあるといえる。

取組み

- ・「耐寒マラソン週間」「なわとび朝会」に引き続き取り組むなど、一人ひとりが目標設定のしやすい取り組みをすすめる。
- ・全校児童で取り組むことのできる巧緻性、瞬発力を高める運動を取り入れる。
- ・体づくり運動を全学年で重点的にを行い、けが防止のためにも柔軟性を高めていく。
 <茨木っ子運動等の実施>
- ・日常生活や遊びに取り入れることのできる体づくり運動を提案していく。(20分休みや昼休みなど)
- ・学習会、研修を通して、各教師の体育の授業力の向上を図る。
- ・授業の中で多様な動きを沢山経験させ、子どもたちが楽しい、もっと動きたいと思える授業づくりに励む。
- ・つまづく児童を想定して、指導方法を工夫し改善していく。